

高萩市民文化誌

川  
岸  
石  
付

## 新たな発見

# 「長久保赤水の京都旅日記」

横山 功

「長久保赤水の京都旅日記」は、長久保赤水没後二〇〇年特別展の準備中に新たに発見されたものである。この貴重な資料は多数の赤水書翰（長久保智保氏所蔵）を裏打

作業の際、偶然にも見つけられた。当日記の形式は、おおよそ今のA3サイズで四ツ折の十六頁となつている。そのうち、十三頁が京都見物の内容となつている。表紙や裏面には旅日記の名称、旅行の年号の表示はない。また、旅の同伴者、宿泊場所、宿名、宿料等の記述もない。お供はおそらく『長崎紀行』で同行した赤水先生の従甥である長久保中行ではないかと推測される。

さつそくこの短編の旅日記を繙いてみよう。京都滞在期間は十一日間である。（当時としては長期滞在中か）特に興味を覚えるのは、第七日目、八日目の二日間続けたの上方の「芝居」見物である。出し物の名や役者名等の記述がないのは非常に残念である。

記述があれば、なおよかつたと惜しまれる。

「昔日京洛に遊ぶ（『長崎行役日記』）の

幻の旅日記か」

旅日記の四頁上欄に細字で「午三月四日迄」と書かれている。問題の「午年」の検証をしてみたいと思う。

赤水先生は旅を四度している。第一回目は宝暦十年（一七六〇）数え年四十四歳のときで、仙台・松島・鳴子・新潟等の東北・北陸の旅である。第二回目は明和四年（一七六七）五十一歳の時で、磯原村の姫宮丸が暴風に遭い安南国（ベトナム）まで漂流した。親切な清国人により長崎まで送られ、その船員の引き取りのため水戸藩の役人に随行しての長崎の旅となった。第三回目は安永三年（一七七四）甲午の年五十八歳の時で、『改正日本輿地路程全図』の序文を

柴野栗山に依頼する目的で上京し、翌四年五月に帰郷している。

ところで、今回発見された「京都旅日記」をみると京都に十一日間滞在し、翌早朝には出発し粟田口・追分・大津・関が原・岐阜と帰路道順が記載されているので短期間の旅日記と思われる。更に検証すると序文依頼の上京の十二年前の午年は、壬午で宝暦十二年（一七六二）にあたる。『長崎行役日記』の中に、「昔日」を数年と解釈すれば、五年前で赤水先生四十六歳の時の旅となる。丁度、東北・北陸の旅の二年後に当る。偶然にも今年は「壬午年」。なんとなくそんな気がしてならない。更なる検討をしていきたいと思つている。

「初日目は十九カ所の神社・仏閣を見物」

見物を簡単に紹介すると、初日は東山見物で、建仁寺を皮切りに方広寺・三十三間堂・清水寺等十九カ所の神社仏閣を見物している。二日目は知恩院・銀閣寺等十一カ所、三日日以降五日までに大徳寺・上賀茂・下鴨（賀茂）神社・相国寺・天竜寺・広隆寺等三十カ所を見物している。六日目は東本願寺・西本願寺・本圀（國）寺等十

カ所を見物、七日目の「芝居」に魅せられたのか翌日も続けての芝居見物となっている。「大石内蔵助（蔵之介）遊し所也」の記述等もあり、出し物は「忠臣蔵」か、郷里赤浜に帰つての京都旅土産に、この芝居見物は更に花を咲かせたのではないだろうか。

九日から十一日目までの三日間は買い物や再度東山辺りを散策している。そして十二日の早朝に出発し粟田口より追分・大津等の名所旧跡を訪れながらの帰路が記述されている。

後日機会があれば、赤水先生のこの「京都旅日記」を基に、平成と江戸時代を比べながらのんびりと散策し、是非紀行文をまとめてみたいと思つている。

※参考までに赤水先生の京都見物十一日間の日程・「京都旅日記」の一部・同日記の解説文・絵図（『京都めぐり』天明四年（一七八四年）再版）を紹介する。『京都めぐり』は赤水先生が京都見物をした当時の神社仏閣の生なまの様子さまが伺える。なお解説文の漢字は常用漢字とした。文字の誤りは（ママ）、文字で疑問なところは（カ）とした。

参考文献『郷土資料辞典』（人文社）

特集・二〇〇二年は長久保赤水の生誕二八五年

### 赤水が歩いた京都見物の日程

訪問日	訪問神社・仏閣等
第一日目	建仁寺、六波羅寺、方広寺、知積院、妙法院宮、三十三間堂、東福寺、稲荷大明神、宝塔寺、瑞光寺、泉涌寺、今熊野、鳥部山、清水寺、靈山、丸山安養寺、八坂の塔、高台寺、祇園社（感神院・蘇民社）
第二日目	知恩院、青蓮院門跡、南禅寺、永観堂、新黒谷、真如堂、銀閣寺、吉田社、法華宗壇所、百万遍、聖護院
第三日目	禁中、妙顕寺、本法寺、妙覚寺、今宮権現、大徳寺、東光坊、貴船明神、小町寺、上賀茂神社、下鴨（賀茂）神社、ただすの森明神、上の御霊、相国寺、内裏（新院御所、仙洞御所）、革堂観音、妙満寺、本能寺、誓願寺、和泉式部の墓、三宝寺、小倉山二尊院、天竜寺、臨川寺、
第五日目	法輪寺、小督塚、松尾明神、長福寺、広隆寺、神泉苑
第六日目	東本願寺、東寺、羅生門、西南の離宮跡、恋塚、六孫王神社、島原、壬生寺、西本願寺、本圀（國）寺
第七・八日目	芝居見物
第九日目	買い物並びに町見物
第十日目	東山へ出て祇園、鳥部山、清水、靈山、丸山辺で遊ぶ
第十一日目	休息、暮方に五条橋を渡り、大仏辺で遊ぶ
第十二日目	早朝出発、粟田口、追分、関寺、関の清水、大津

△初り東山見物。色々あり  
 ○建仁寺 ◎六波羅寺十七層  
 ○大佛方廣寺と云 札所  
 ○知積院真言檀所  
道場の僧あつたか未だ  
此所なる也  
 ○妙法院宮大佛堂  
比叟イ山毛猫あつたか未だ  
三十三間堂  
 ○三十三間堂  
 ○東福寺五山一  
聖一國師開山  
 ○稻荷方の種海草のい  
日本中の稻荷の山と云  
美事ありあり



(絵図の出典『京都めぐり』天明四年(一七八四)再版から)

「三十三間堂」蓮華王院が正式名 本堂の名で有名な寺

△初日東山見物。四糸ノ橋を

渡りて

○建仁寺 ◎六婆羅寺十七番

札所

○大仏 方広寺と言

庭ニ朝鮮人の耳塚有

○知積院 真言檀所

近付の僧あらハ手紙等持て

行べし 千畳敷の座敷

見物もなる也

○妙法院宮 不可入

大仏堂  
三十三間堂  
御支配

比エイ山モ輪番に御支配也

○三十三間堂

○東福寺 五山ノ一

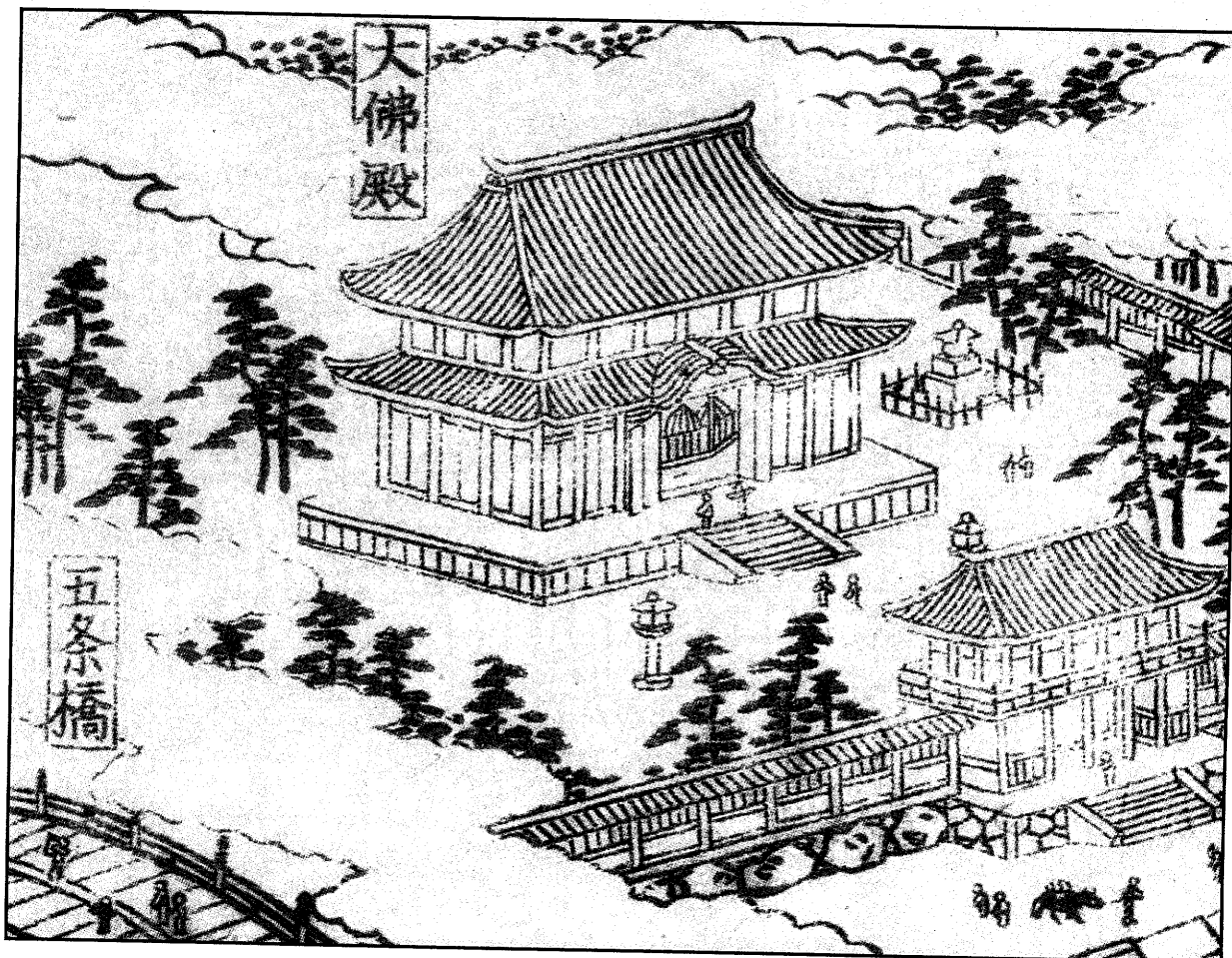
聖一國師開山

○稻荷大明神 深草のいなり（お）

山と言

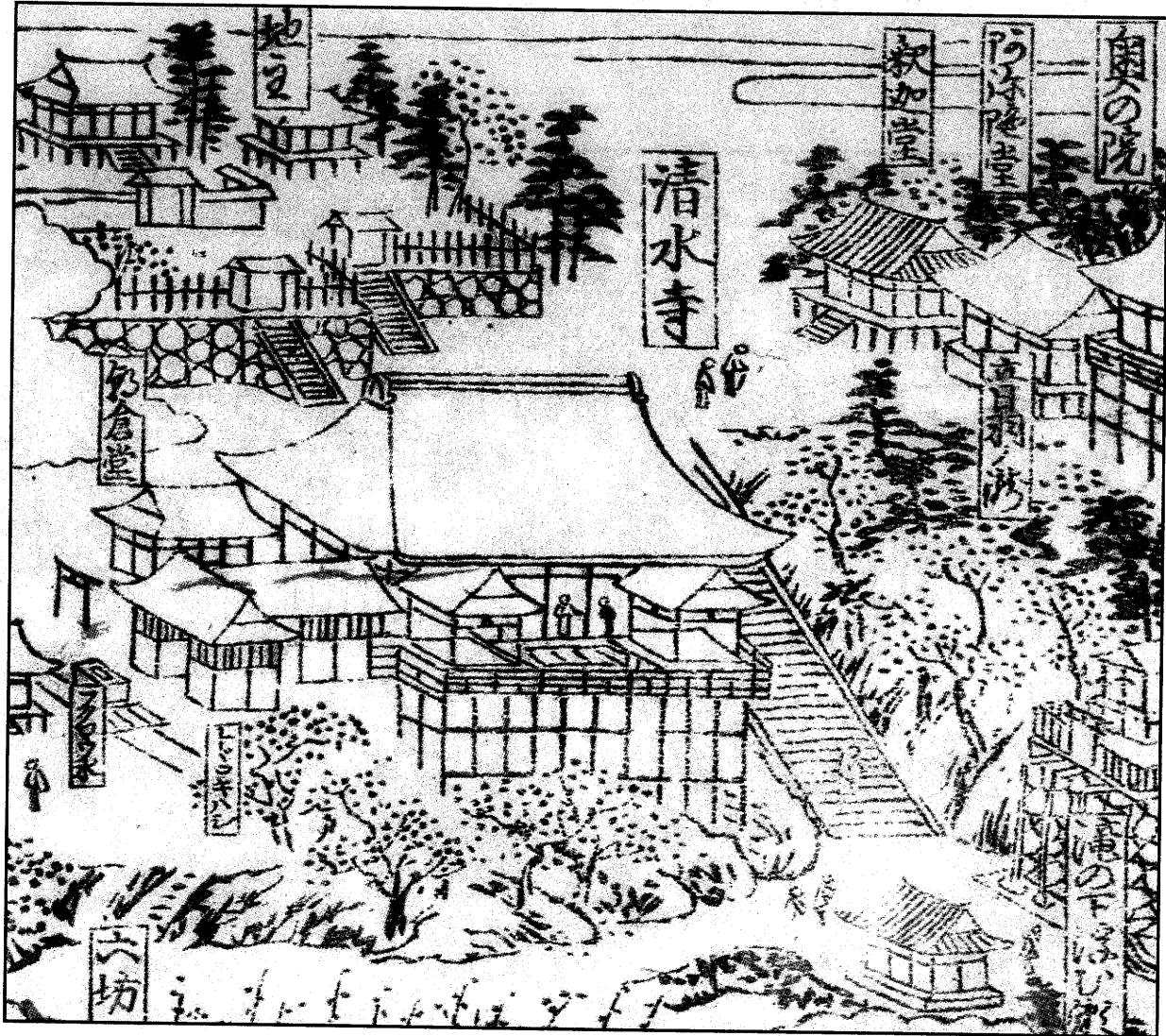
日本中の稻荷官位の所也

是より南へ行て



「方広寺」「大仏殿」の名で知られた寺

◎清水寺 十丈高札石 音羽流  
 ◎地蔵持現  
 ◎重宝山寺 五葉を日お也  
 ◎丸山 善吉の風景より  
 ◎比坂の塔 寺の井邊寺  
 ◎祇園林 本社 秀吉善徳不  
 ◎感神院 蘇民社  
 ◎大石 揚屋 大石 揚屋  
 ◎女 白人 云  
 ◎其 長 有  
 ◎切 石  
 ◎見 石 大石 揚屋



「清水寺」西国三十三所需場第十六番札所

○清水寺 十六番札所 ○音羽滝

○田村丸堂

○地主権現

○靈山 ○寺モ茶屋同前也

江戸の日くらしに同じ

○東本願寺墓

○丸山ノ安養寺 風景よし

○八坂の塔 ○高台寺

秀吉菩提所

御廟有

○祇園林 本社 ○感神院 ○蘇民社

六月十五日大祭有 ○ぞさのをの尊

牛頭天王なり

○門前に揚屋有。遊女ハ白人ト言

わきの家より揚やへよびて

見るナリ 大石蔵之介遊し所也

夜みせに出る女ハ皆切見セ也

川岸ニ

○芝居有

此日ハ是より帰るべし



「高台寺」豊臣秀吉の菩提を弔うために北政所が建立した寺

△第ニ目

之集の山橋大橋と云

○知恩院 浄土宗大本山也

○大鐘堂 ○乾の八音皮おん

○三門の上は十六羅漢有

け寺ハ橋の名西なり

○蓮生院 山門縁。叡山と稱す

○南禅寺 又山の一

○新里谷 ○蓮生院有

○真如堂 ○比丘尼所

○銀閣寺 东山我故住居地

川と云く入



「知恩院」浄土宗の総本山 現在では“除夜の鐘”で有名な寺



△第二日目

三条の（小橋）大橋を渡り

（高瀬川）加茂川

○知恩院 浄土宗大本寺也

午三月四日迄 江戸増正寺より移り来る

○大鐘有○願へハ座敷も拝スト言

○三門の上に十六羅漢有

此寺ハ桜の名所なり

○青蓮院御門跡。叡山を輪番二

持給ふ

①南禅寺 五山の一

②永観堂

③新黒谷 ○蓬生坊庵あり

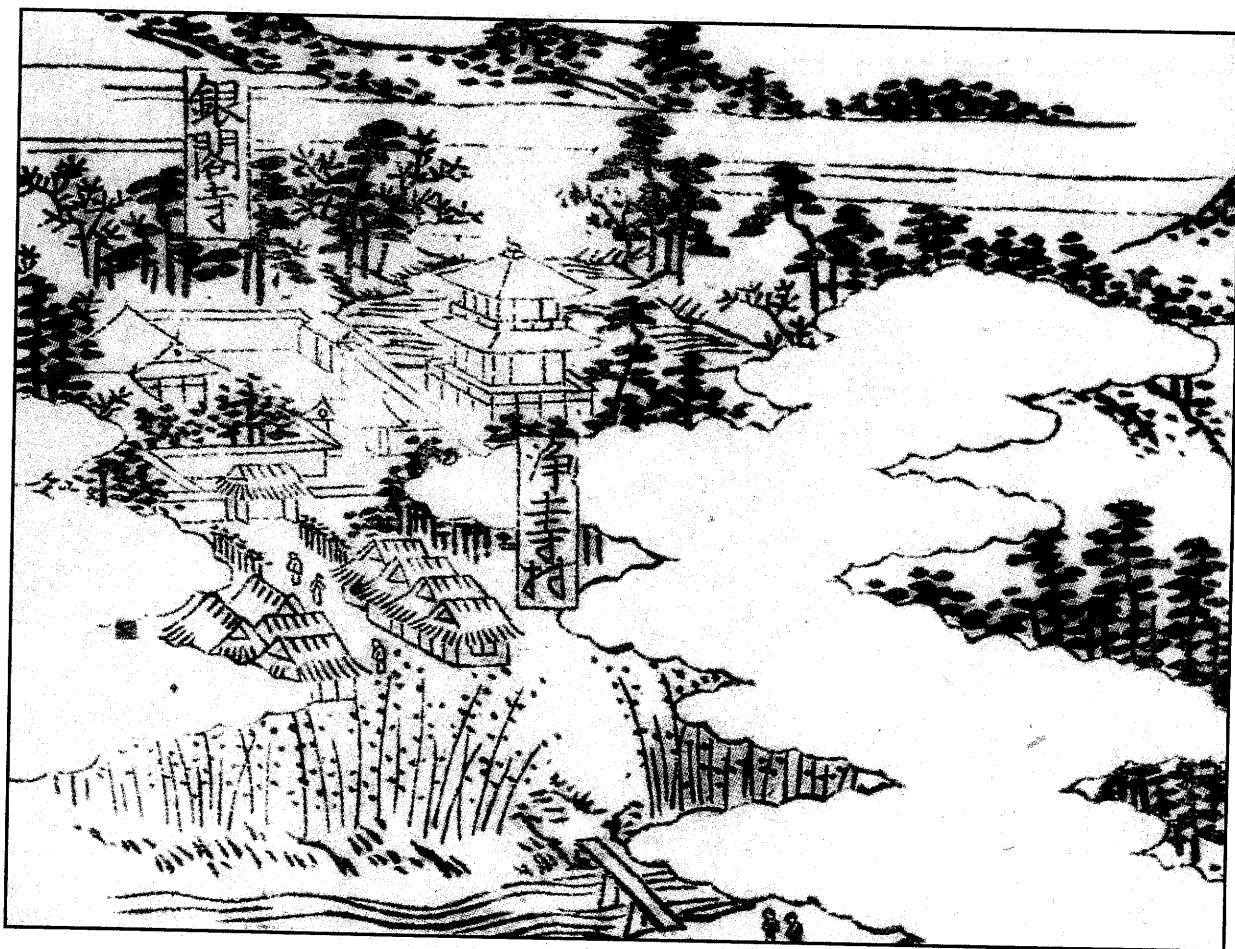
紫雲山ト号す

④真如堂 ○比丘尼御所

⑤銀閣寺 東山義政隠居地

○東求堂と言茶室有

引を求めて入べし



「銀閣寺」足利義政の東山山荘をその遺志により寺に改められた

〇第之六日 公家所見物  
 藤原中 者の西計もく心社を境  
 五百人あくる禁中  
 入る  
 〇其より  
 〇一系樓の北邊の多と道  
 〇宝町 かつて 京中よその  
 〇妙眼寺 法善宗大本寺  
 〇本法寺 健立ノ師匠  
 〇妙光寺 日貞上人寺  
 〇紫雲寺 今宮行現  
 〇大徳寺 一休和尚寺  
 〇中土賣と云所 〇新莊家町  
 〇織物 田工もの  
 〇藤原 〇新莊家町



「妙眼寺」京都における日蓮宗最初の道場として建立された

△第三日目 公家町ヲ見物し  
○禁中 宿の取計にて御神東錢

五百文出して禁中  
入べし

其レより

○一条様の屋敷の辺を通り

○室町へ出て京中にての

よき町なり

○妙顕寺 法華宗大本寺

○本法寺 建立ノ師匠

日貞上人此寺

にて死す

慶長七年二月長谷川等伯絵事有り

○妙覚寺 勝劣法華なり

○紫野 ○今宮権現

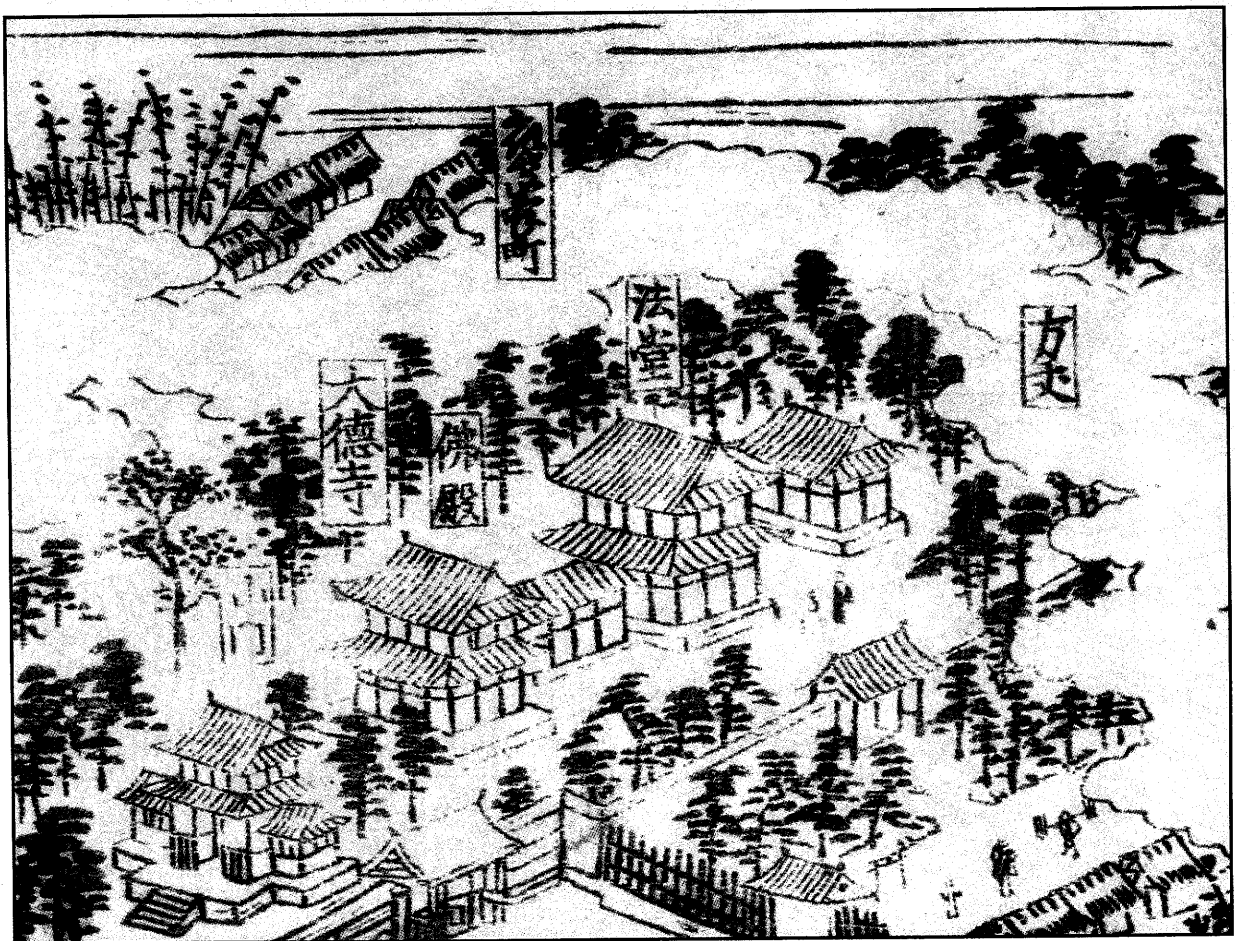
○大徳寺 一休和尚ノ寺

是より引返し ○新在家町

○中立売ナカタクシと言町を通り

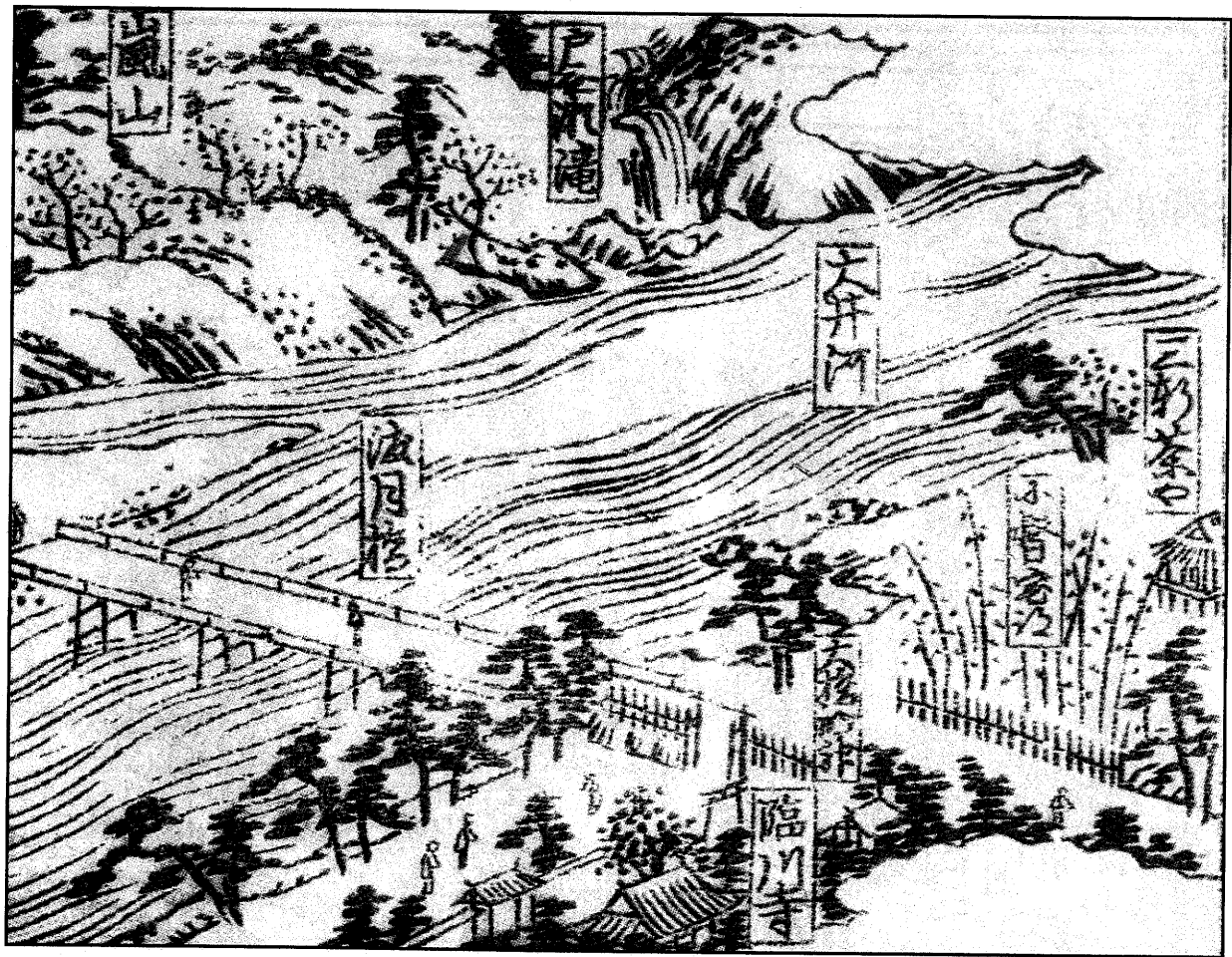
よき町なり室町通りへ

出て織物細工ものとも



「大徳寺」一休宗純が再建した寺

○三寶寺 新着 流石に入る寺  
 ○小倉山二の院  
 ○時雨亭の院 定家の當院  
 ○天龍寺 妙山の院。夢窓國師  
 築山と夢窓の院 開山  
 岨我流とくまふか  
 ○臨川寺 開山 夢窓  
 右井川とくまふか 桂川とく  
 渡月橋とくまふか  
 ○法橋寺 虚空蔵  
 大連 小幡局ノ當院有  
 ○杉尾の院 大井川をわたり  
 ○梅原の寺 福寺の梅の宮



「臨川寺」夢窓國師ゆかりの寺

- 三宝寺 齊藤瀧口入道カ寺
- 小倉山 二尊院
- 時雨亭の跡 定家の旧跡
- 天龍寺 五山の一。夢想(夢)國師  
開山
- 築山 夢想(夢)の作  
嵯峨流とて手本ニ成事  
也
- 臨川寺 開山夢想(夢)  
大井川を下モニテ桂川と言  
渡月橋を渡りて
- 法輪寺虚空蔵  
此辺ニ小督局(小)ノ旧跡有
- 松尾明神 大井川を舟渡り
- 梅津の長福寺 ○梅の宮



「法輪寺」本尊の虚空蔵菩薩は日本三虚空蔵として有名

# 日本國寺 法苑大平寺

和群人の旅館と云

北老山の寺の本寺也

足利寺氏の叔父大覚僧正

徳倉松島お給より氏而い

川寺、いふ八町の方也

早より中の京を尼也

者、海より

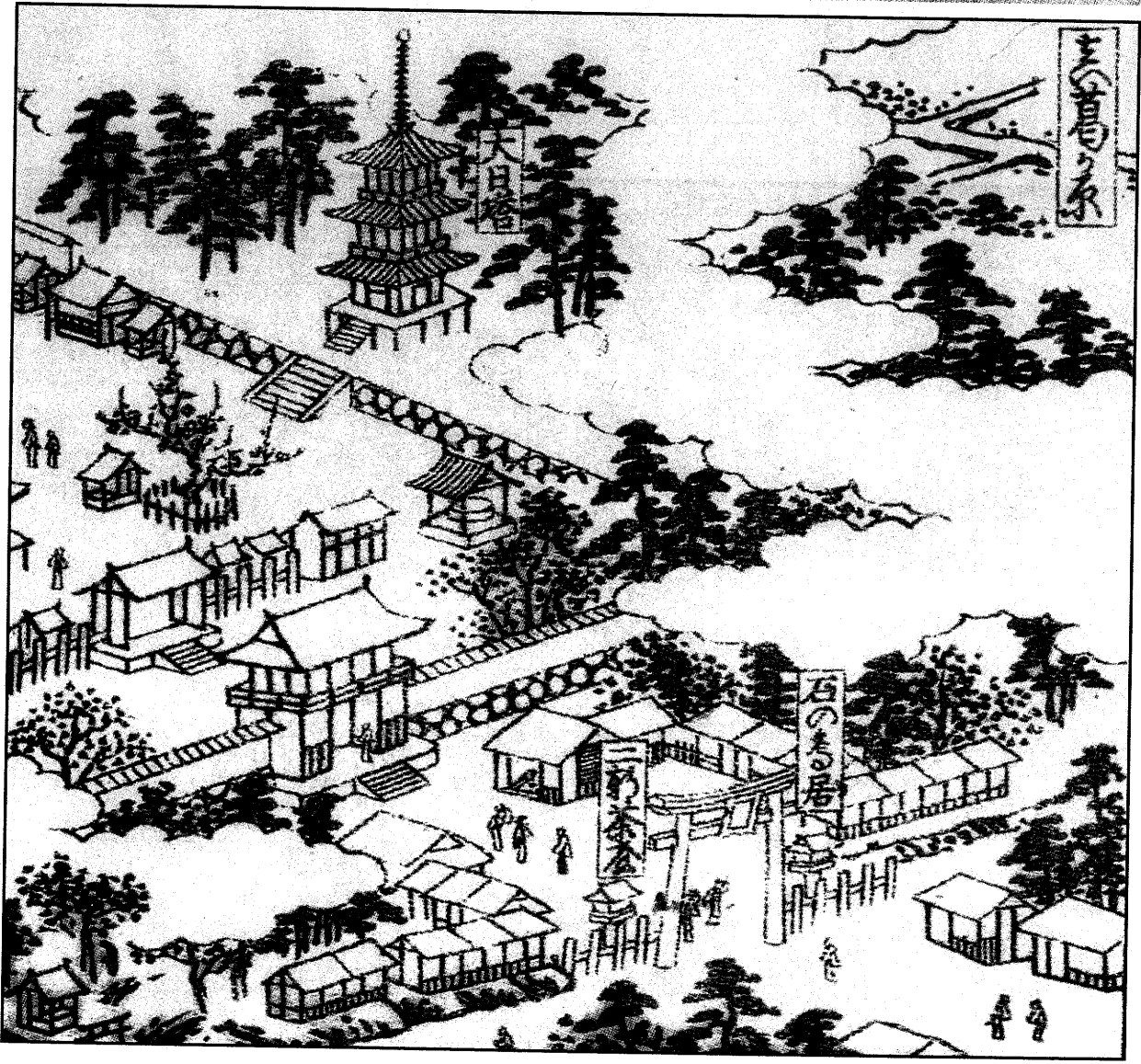
△第七目 其、我、尼、也

△第八目 同、也

△第九目 同、也

△第十目 同、也

△東山、かて、祇園、なる、那山



「八坂神社」境内の様子 石の鳥居はわが国最大で国の重要文化財

- 本國寺 法花(ママ)ノ大本寺  
朝鮮人の旅館と成  
水戸山の寺の本寺也  
足利尊氏の叔父大覚僧正  
鎌倉松葉谷マツノより此所へ  
引寺ニし給ふ 八町四方也  
是より中の京を見物し  
宿へ帰るべし
- △第七日目 芝居見物  
△第八日目 同断  
△第九日目 買物并町見物  
△第十日目  
東山へ出て祇園。鳥部山



祇園社は牛頭天王が祇園精舎の守護神に由来する

ほとり。龜山。丸山のまへ  
 おくおまづー  
 △第百十百ハ休是はおめ梅  
 昔より、五葉揚とて  
 ち佛のまゝなりおまづ  
 △第百十百目、おくおまづ  
 ●夏も田はあり  
 追分、伏見、八幡の海道也  
 ●是より南を山科と云  
 逢坂山、及の上た有  
 ●園寺、昔の園也  
 ●園明神、明と云俗説の  
 園の清也



賀茂祭が「北の祭」で、石清水八幡宮の祭が「南の祭」とも呼ばれていた



清水。靈山。丸山の辺へ  
出て遊ぶべし

△第十一日ハ休足 荷物拵

暮方ニ五条橋を渡

大仏の辺へ出て遊べし

△第十二日目ニ

早く発足

一粟田口より

○追分。伏見へ分る海道也

是より南を山科郷と言

○逢坂山 道の上左ニ有

○関寺 昔の関所也

○関明神「蟬丸と言ハ俗説カ

○関の清水



王朝絵巻を再現する上賀茂・下鴨両神社の賀茂祭（葵祭）行列